

人工ホダ場内環境調査結果 III (10~12月)

1 はじめに

当センターでは、人工ホダ場と林内ほだ場及び林外の環境条件の違いを明らかにするため、1年間温湿度調査を実施した。今回は平成16年10月から12月までの測定結果について報告する。

2 人工ほだ場の概要

当センター内に設置した総面積520㎡の鋼材製一部木造の施設である。遮光資材は南東-北西方向に設置している。

3 調査方法

当センター内の林内ほだ場及び人工ほだ場のそれぞれにサーモレコーダーを設置し測定を行った。さらに当センター内の気象観測装置によるデータを林外として比較した。調査時間は0時から3時間毎とした。

4 期間中の温湿度変化について

この期間の気温は、前回報告した7~9月の結果と比較して、10月下旬からは林外、林内、人工ホダ場とも殆ど同じ温度変化を示していた。シイタケ菌が生長を休止する5℃以下の気温になる時期は12月中旬からであった。湿度変化は、林外がやや高目で推移していたが、11月下旬からは林内と人工ホダ場ともほぼ同じ推移を示している。(図-1、図-2、林内10月上・中旬欠測、林外11月下旬欠測)。

人工ホダ場では、12月の最低気温が氷点下となる日が10・11月より多くなり、散水管に残った水や林外にある散水用の溜池では凍結しやすくなる。(図-3)

5 10~12月の人工ホダ場管理の留意点

平成16年の秋子採取期間は、11月上旬から下旬であった。この時期は次第に気温が低下していくが、11月下旬以降にも採取前のきのこを生長させて収穫するためには、1つずつ袋かけを行うことや、雨除け資材と内張りを併用してきのこが生長できる温度を確保するよう努める必要がある。なお、雨除け資材は降雪前に巻き上げておく必要がある。

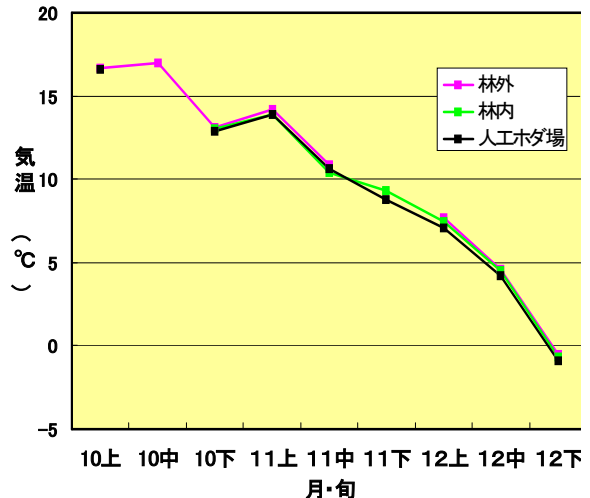


図-1 平成16年10~12月旬毎の15時の平均気温
注) 林外11下、林内10上・中、人工ホダ場10中欠測

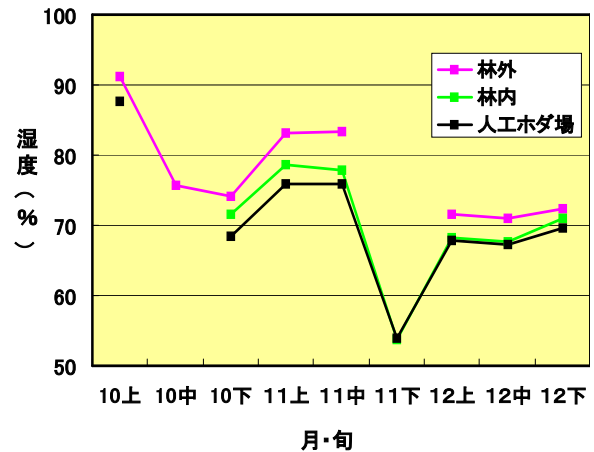


図-2 平成16年10~12月旬毎の平均湿度
注) 林外11下、林内10上・中、人工ホダ場10中欠測

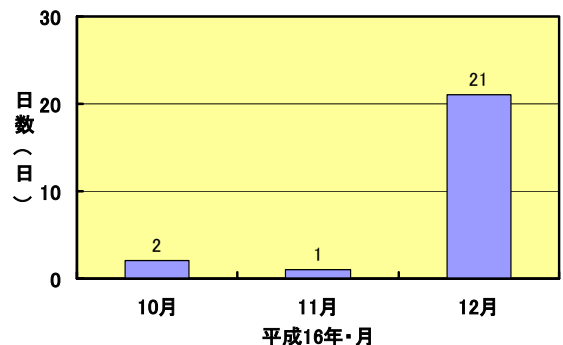


図-3 平成16年人工ホダ場氷点下記録日数

(担当 林産利用部 上席専門研究員 小原孝文)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
岩手県林業技術センター
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>

TEL 019-698-1337

FAX 019-697-1410